

アルプスの峰々と古城が美しい 白鳥が集う村

フュッセン& シュヴァンガウを征く



●征くシリーズ●取材・執筆・写真／本誌編集部



©The German National Tourist Board



ロマンティックな道のり

ドイツには、英国のロンドン、フランスのパリ、日本の東京に匹敵するような、その国を代表する一大都市というものがない。ドイツの正式名称が「ドイツ連邦共和国」であることからわかるように、中世の時代からこの地域には自由都市や小さな国家が連立していた。そのため、北部、南部、中部とエリアによって異なるユニークな文化が発達し、行く先々でさまざまな様相を見せるのがドイツの醍醐味でもある。

首都ベルリン、ミュンヘン、ハンブルクといった主要都市もさることながら、ドイツの観光名所として親しまれているのは、国内に百五十以上もあるといわれる「観光街道」[Ferienstraße]。これらはドイツの政府観光局や自治体が、それぞれのテーマに沿って史跡や景勝地を結んだルートで、国内外の旅行者のために企画運営されているものだ。そこに一本の道が通っているわけではなく、地図上で主な観光名所をつなぎ、その位置関係をわかりやすく示した便宜上の「街道」。その通りに訪問順路が定められているわけでもなく、旅行者は自分の興味、関心に合わせて好きな場所を訪れればよい。

グリム兄弟とその童話や伝説にゆかりのある地を結ぶ「メルヘン街道」やドイツの文豪ゲーテの足跡をたどる「ゲーテ街道」、オーストリアの国境近く、アルプス山脈の自然を結ぶ「アルペン街道」、高級温泉保養地バーデン・バーデンと森や湖を結ぶ「ファンタスティック街道」などは、日本人観光客の利用度も高いルートだが、最も知名度があり、ドイツ観光の最大の目玉になっているのが、お馴染み「ロマンティック街道」。ヴュルツブルクをスタート地点とし、ローテンブルク、ネルトリンゲン、アウクスブルク、終点のフュッセンまでを結ぶ、全長約三百五十キロの道のりには、中世のバイエルンを髣髴とさせる町や村、芸術や自然に浸れるスポットが満載だ。

「ロマンティック街道」が誕生したのは一九五〇年。今年は六十周年にあたる。この街道の名は既述のようにバイエルン地方の観光を推奨するために名づけられたものではないが、「ローマ風」という意味合いも込められており、この辺りに紀元前後のローマ人が作った「ローマ街道 Roman Road」が存在していることを指す。

紀元前十五年に、現在のイタリア北部からアルプスを越えてレヒ川上流までを結ぶ「クローティア・アウグストゥス街道」という街道の建設が始まり、紀元四十七年にはフュッセンからアウクスブルクを越え、より北へと拡張された。中世の時代には、さらに北のドナウ川、メイン川と交差することで、重要な通商ルートとして栄えたという。その道程と、現在のロマンティック街道のルートはびたりとは重ならないものの、ほぼ同じ道筋を辿ることから、ロマンティック街道はローマ街道である



シュヴァンガウ Schwangau

ノイシュヴァンシュタイン城 Schloss Neuschwanstein

「対称的な建築などいらない。欲しいのは絵画的な多様性をそなえた建築だ」。1869年、若きバイエルン国王ルートヴィヒ2世の命により、中世ロマネスク初期の城を再現すべく、建設が始められた。塔、小塔、鐘楼、突廊などのある複雑な構造は、見る角度や高さによって、さまざまに姿を変える。ルートヴィヒ2世の神秘主義のもとに装飾が施された、荘厳なゴシック朝の寝室、豪華なビザンチン様式の「王座の間」、600本の燭台シャンデリアが荘巻の「歌手の間」などが見どころだ。未完成に終わってはいるものの、その幻想的な美しさゆえにドイツ全土の「眠れる森の美女」城のモデルにもなっている。

ノイシュヴァンシュタイン城 Neuschwanstein Castle
Tel.08362 939880 www.neuschwanstein.de
ホーエンシュヴァンガウ城 Hohenschwangau Castle
Tel.08362 930830 www.hohenschwangau.de

ともに開城時間は
4-9月: 9時-18時
10-3月: 10時-16時
*チケットはホーエンシュヴァンガウ城近くの子供センターで
購入可能。各城ではチケットを販売していないので要注意。

チケットセンター営業時間
4-9月: 8時-17時
10-3月: 9時-15時
www.ticket-center-hohenschwangau.de

入場料 各城とも
大人 9ユーロ 子供・シニア 8ユーロ
両城の共通チケット
大人 17ユーロ 子供・シニア 15ユーロ

ノイシュヴァンシュタイン城とホーエンシュヴァンガウ城の入場券はこのチケットセンターで入手する。隣のHotel Müllerが目印。なお、チケットはインターネットでも予約可能。



バイエルン人は野蛮人?

「バイエルン」のドイツ語の綴りは「Bayern」だが、英語の綴りは「Bavaria (バヴァリアと発音)」で、「バイエルン人」や「バイエルンの」という意の英語は「Bavarian (バヴァリアン)」。古代ギリシャ人が異国の民を「バルバロイ (野蛮人) Barbaroi」と呼んでいたことから転じ、古代ローマ人もイタリア半島北部に住むガリア人をバヴァリアンと呼んでいた。「野蛮人」を意味する英語「barbarian (ババリアンと発音)」も語源は同じ。

ホーエンシュヴァンガウ城から見たノイシュヴァンシュタイン城。ルートヴィヒ2世はここから、そして城内から、ノイシュヴァンシュタイン城の建築工程を眺めていた。



城内入口から見た城の姿。白亜の石がまばゆい。近くに寄ってしまうと、あまりのスケールに全体像が見えない。
ノイシュヴァンシュタイン城から裏手に15~20分歩いたところにあるマリエン橋からは城の全体像を見ることが出来る。ただし、それも天気次第。取材班が訪れた日は霧が濃すぎて残念ながらこのような景色しか見られなかった…



マリエン橋のサイン。観光バスによるツアーでは、マリエン橋のそばまで乗りつけ、そこから城まで15分ほど歩くことになる。

ホーエンシュヴァンガウ城 Schloss Hohenschwangau

ルートヴィヒ2世が幼少時代を過ごし、ミュンヘンと行き来しながら青年時代をも過ごした城。ルートヴィヒ2世がこよなく愛した騎士伝説のヒーロー「ローエングリン (白鳥の騎士)」をモチーフにした壁画が晩餐室に描かれているほか、敬愛する作曲家ワーグナーを呼び寄せて弾かせたといわれるピアノを見ることが出来る。ルートヴィヒ2世を知るには必見の城。



チケットセンターからノイシュヴァンシュタイン城までは長い坂道を40~45分ほど歩いて歩くか、観光馬車を利用する。観光馬車は上りが1人4ユーロ、下りは2ユーロ。ホーエンシュヴァンガウ城まではやはり坂道を徒歩20分程度。



チケットセンターがあるホーエンシュヴァンガウ村の風景



ドイツ
フュッセンを含むバイエルン州南部は、現在のアウクスブルクを中心都市とする古代ローマ帝国の属州「ラエティア」があった場所だ。フュッセンには、アルプス山脈を越えて北へと続く交易路の重要な警備地点として城郭が建設され、



ロマティック街道の道程を示す標識

中世の街並みと古城を愛する

フュッセンを含むバイエルン州南部は、現在のアウクスブルクを中心都市とする古代ローマ帝国の属州「ラエティア」があった場所だ。フュッセンには、アルプス山脈を越えて北へと続く交易路の重要な警備地点として城郭が建設され、

と誤解されることも多い。ロマティック街道をめぐる観光バスツアーのほとんどは、各スポットを駆け足で周る旅程のものがほとんどだが、バイエルンの雄大な自然と中世の街並みの美しさに浸るなら、あえて、ひとつの場所に留まってみるのも一案。とくに、オーストリアとの国境にほど近いフュッセンは、アルペン街道の通過地点でもあり、ノイシュヴァンシュタイン城、ホーエンシュヴァンガウ城の二大古城を訪れるのにも最適なロケーションで、さらにアルプスの大自然を堪能できる保養地としても利用価値が高い。



ホーエンシュヴァンガウ城にある白鳥の噴水。同城内には、白鳥がモチーフとして随所にあしらわれている。

が色濃く残されている。ひっそりとした片田舎であるが、現在は、年間百三十万人もの観光客を数えるノイシュヴァンシュタイン城、年間三十万人が訪れるホーエンシュヴァンガウ城が目と鼻の先にあることで、ドイツの重要な観光都市となっている。この二つの城がフュッセンにあると認識している人も少なくないと思うが、正確には城が位置するのは「シュヴァンガウ Schwangau」という地域にある小さな村「ホーエンシュヴァンガウ」。「シュヴァン」は白鳥、「ガウ」は地域という意味で、日本語でいうなら「白鳥区」あるいは「白鳥の里」とでもいったところだろうか。「ホーエン」は高いという意味で小高い丘の上にある村があることを示している。ホーエンシュヴァンガウ城は、十二世紀に建てられたまま廃墟と化していた古城「シュヴァンシュタイン城」を一八三七年に改築したもので、直訳すると「高い白鳥の城」。「ノイ」は「新しい」、シュヴァンシュタインは「白鳥石」の意で、ノイシュヴァンシュタイン城は、この中世の古城にちなんで「新しい白鳥石城」と名づけられたわけだ。バイエルン国王ルートヴィヒ2世が少年、青年時代を過ごしたが、ホーエンシュヴァンガウ城で、彼の命により建てられたのがノイシュヴァンシュタイン城だ。この二つの城は、キロと離れておらず、ルートヴィヒ2世は建設途中のノイシュヴァンシュタイン城をホー

山の恵み

フュッセンがバイエルンの都市の中で最も標高が高いことから推測できるように、ここから十キロ南下したところにはアルプス山脈が広がり、美しい山並みを見せる。高い山がなく、どこまでも平野が続く英国の風景に慣れたしまった日本人は、むしろこのバイエルンの山深い風景に郷愁をそえられる

フュッセンがバイエルンの都市の中で最も標高が高いことから推測できるように、ここから十キロ南下したところにはアルプス山脈が広がり、美しい山並みを見せる。高い山がなく、どこまでも平野が続く英国の風景に慣れたしまった日本人は、むしろこのバイエルンの山深い風景に郷愁をそえられる



レヒ川からみたフュッセンの街並み。

©The German National Tourist Board

近代にトンネルが掘られるまでは、イタリア地方から北部ヨーロッパへ渡る際には避けられない峠として、アルプス山脈は戦争や通商、巡礼などにおいて大きな障害となつた。有名なアルプス越え」として語り継がれているのは、カルタゴの将軍ハンニバルが行ったもので、アルプス越えを敢行することでローマ軍を煙に巻き、一挙にイタリア半島を侵略し、第二次ポエニ戦争が始まったことでも知られる。そのほか、フランス王国のカール大帝、フランスのナポレオン一世もやはりイタリア征服のためにアルプス越えを行っていた。現在、その大山脈は、かつての「険しい峠」としての性格は影をひそめ、登山愛好家や、ハングライダーやパラグライダーなどのスカイスポーツ、スキーやスノーボードなどのウインタースポーツを楽しむ人々に親しまれている。ドイツの最高峰として二九六二メートルの標高を誇る「ツークシュピッツ」には及ばないものの、シュヴァンガウにも小ぶりの峰「デーゲルベルク山」(標高一七二〇メートル)が連なり、前述のスポーツ愛好家たちが集まっている。この山へ登るロープウェイからは、山腹に漂と佇むノイシュヴァンシュタイン城を望むことができ、「マリエン橋」とともに、城の全体像を眺められる絶好の場所としてもぜひお薦めしたい。

近代にトンネルが掘られるまでは、イタリア地方から北部ヨーロッパへ渡る際には避けられない峠として、アルプス山脈は戦争や通商、巡礼などにおいて大きな障害となつた。有名なアルプス越え」として語り継がれているのは、カルタゴの将軍ハンニバルが行ったもので、アルプス越えを敢行することでローマ軍を煙に巻き、一挙にイタリア半島を侵略し、第二次ポエニ戦争が始まったことでも知られる。そのほか、フランス王国のカール大帝、フランスのナポレオン一世もやはりイタリア征服のためにアルプス越えを行っていた。現在、その大山脈は、かつての「険しい峠」としての性格は影をひそめ、登山愛好家や、ハングライダーやパラグライダーなどのスカイスポーツ、スキーやスノーボードなどのウインタースポーツを楽しむ人々に親しまれている。ドイツの最高峰として二九六二メートルの標高を誇る「ツークシュピッツ」には及ばないものの、シュヴァンガウにも小ぶりの峰「デーゲルベルク山」(標高一七二〇メートル)が連なり、前述のスポーツ愛好家たちが集まっている。この山へ登るロープウェイからは、山腹に漂と佇むノイシュヴァンシュタイン城を望むことができ、「マリエン橋」とともに、城の全体像を眺められる絶好の場所としてもぜひお薦めしたい。

近代にトンネルが掘られるまでは、イタリア地方から北部ヨーロッパへ渡る際には避けられない峠として、アルプス山脈は戦争や通商、巡礼などにおいて大きな障害となつた。有名なアルプス越え」として語り継がれているのは、カルタゴの将軍ハンニバルが行ったもので、アルプス越えを敢行することでローマ軍を煙に巻き、一挙にイタリア半島を侵略し、第二次ポエニ戦争が始まったことでも知られる。そのほか、フランス王国のカール大帝、フランスのナポレオン一世もやはりイタリア征服のためにアルプス越えを行っていた。現在、その大山脈は、かつての「険しい峠」としての性格は影をひそめ、登山愛好家や、ハングライダーやパラグライダーなどのスカイスポーツ、スキーやスノーボードなどのウインタースポーツを楽しむ人々に親しまれている。ドイツの最高峰として二九六二メートルの標高を誇る「ツークシュピッツ」には及ばないものの、シュヴァンガウにも小ぶりの峰「デーゲルベルク山」(標高一七二〇メートル)が連なり、前述のスポーツ愛好家たちが集まっている。この山へ登るロープウェイからは、山腹に漂と佇むノイシュヴァンシュタイン城を望むことができ、「マリエン橋」とともに、城の全体像を眺められる絶好の場所としてもぜひお薦めしたい。

ジャーニーを定期購読しませんか?
ご自宅やお勤め先に毎週お届けします。

英国国内での購読料《送料込み》
●週刊ジャーニー【3ヵ月(13冊) £18/6ヵ月(26冊) £30/1年(52冊) £55】

右記用紙または、お手持ちの紙にお名前(フリガナ)、お届け先ご住所、お電話番号をご記入の上、小切手またはポスタルオーダーを添えて、右のあて先までご郵送ください。

お問い合わせ: ジャーニー編集部 ☎020-7307-3210

ジャーニーのクラシファイド・アドなら
お申込みからお支払いまでオンラインでラクラク

掲載料はその場で自動計算

ご利用頂けるカード
Switch / Maestro / Solo Delta / Master / Visa American Express

Japan Journals Ltd
Journey Classified Dept.

www.japanjournals.com

Teigelberg

—テゲルベルク—



ロープウェイの乗り口。パラグライダーを楽しむ人々が大きなリュックに装備を詰めて、乗車に訪れていた。

ノイシュヴァンシュタイン城から1キロ弱のところにあるテゲルベルクへのロープウェイ乗り場。(13頁の地図参照)
乗車料は大人2.6ユーロ、子供2.1ユーロ

ロープウェイから見たノイシュヴァンシュタイン城=左とホーエンシュヴァンガウ城=右。



フッセンとシュヴァンガウの間に広がるフォルツェン湖。光る湖と森の緑は、バイエルンの象徴ともいえる。
©The German National Tourist Board



ロープウェイはかなりの急勾配なので高所恐怖症の人は控えたほうが良さそう。サイズはロンドン・アイのキャプセルの半分ほどの大きさで10数人は乗ることができる。



4月半ばはバイエルン地方にとってはまだ「冬」だそうで、ロープウェイを降りるとそこは一面銀世界。山の上の気温は零下に近い。それでもこの日は風の具合がほどよいのか、パラグライダー愛好家たちがちらほら現れては飛行を試みていた。ここはパラグライダーやハングライダーの世界選手権が行われるなど、スカイスポーツのメッカでもある。日本人選手も多数訪れるという。写真はテイクオフの瞬間。

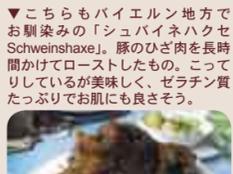
▼ドイツに来たらやっぱりビール。濃い茶褐色のDunkelsはアルコールがやや強め。



バイエルン料理



▲バイエルン名物「ケーゼスペツツェル Käsespätzle」。厳密にはバイエルンの小さな町ヴァールWaalの郷土料理。たっぷりのチーズと和えたパスタにフライドオニオンが添えられている。かなりのボリューム！



▼こちらもバイエルン地方でお馴染みの「シュバイネハクセ Schweinshaxe」。豚のひき肉を長時間かけてローストしたもの。こってりしているが美味しく、ゼラチンたっぷりでお腹にも良さそう。



▲レバーのひき肉の団子 Leberknödelと、セモリナ(デュラム小麦を粗挽きしたもの)の団子入りスープ。その名も「パリアンスープ」。口当たりが良く、風味豊かだが、塩味はかなりきつめ。

Füssen

—フッセン—



ライヒェン通り
Reichenstrasse

旧市街にある目抜き通り。ローマ人が作った「ローマ街道」として知られる。カラフルな壁が目を惹かせる建物は、15～16世紀から市民の家屋として使われていたもの。ショップやレストラン、お土産屋などが立ち並ぶ。店の看板にも凝ったデザインが施されており、ロマンティック街道らしい雰囲気を感じさせている。



聖マク修道院 Kloster Sankt Mang Füssen

聖マクは「聖マグヌス」のことで、8世紀に宣教師としてフッセンに赴いた聖マグヌスにちなんで建てられた旧ベネディクト会の修道院。地下室には聖マグヌスの遺体が安置されていると伝えられるほか、バイエルン最古の壁画もある。



フッセン市博物館 Museum der Stadt Füssen

1913年に聖マク修道院の南棟にオープンした市立博物館。修道院の主要部分はこの博物館と連結しており、厳かなバロック建築の内部や礼拝堂を見ることができ、

1000年にわたる修道院の歴史を辿ることができる。

2010年10月10日までの
オープン時間：9時～17時半
定休日：月曜
大人 2.5ユーロ



フッセンの南を流れるレヒ川。19世紀まで重要な通商路として多くの交易船が行き交っていた。この川を渡って2キロも行けば、そこはオーストリアだ。

ホーエス城 Hohes Schloss

もともとは13世紀末にアウクスブルクの司教のために建てられた城で、15世紀に改装されたもの。ドイツ国内に残る重要な後期ゴシック建築物のひとつ。現在、内部はバイエルン州立絵画館と市立ギャラリーとして機能している。取材班の訪れた際も中庭にコンテンポラリー作品が展示されていた。写真下方に見える文字「kunst」は「アート」の意。窓まわりには彫刻が施され、平面なのに凹凸があるように見える。

4～10月の火～日：11時～17時
11～3月の金～日：13時～16時
大人 2.5ユーロ



群馬県の沼田市とフッセンとは1995年より姉妹都市提携が結ばれている。この彫刻は姉妹都市協定を記念して造られたもの。シュテファン



聖シュテファン教会のそばにある「ロマンティック街道終点 Ende der romantischen Straße」と書かれた扉。3本の脚が組まれたフッセン市の紋章も見える。

あなたのブログをジャーニーのホームページにリンクしませんか？

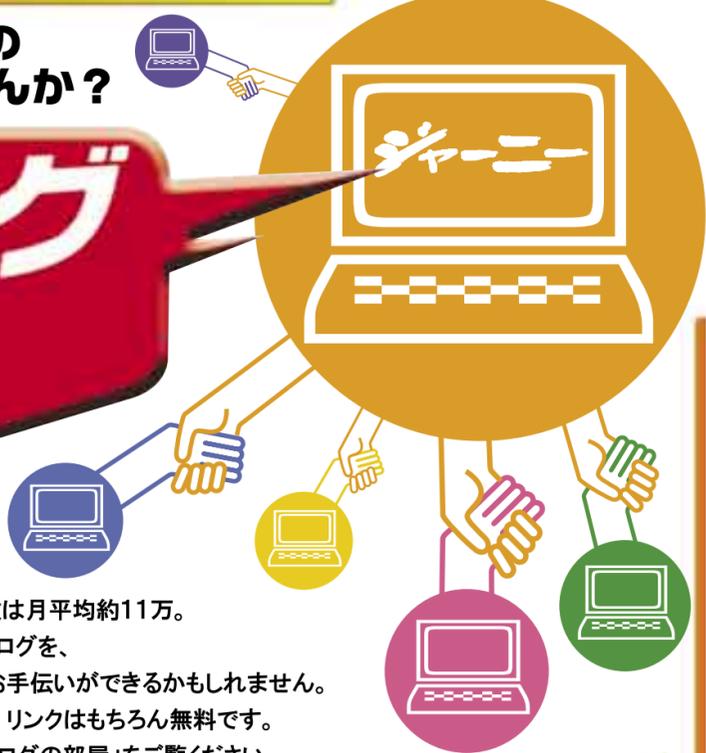
個人ブログ大募集!!

現在、インターネット・ジャーニーへのアクセス数は月平均約11万。
あなたが発信している英国での生活に関するブログを、
今よりちょっぴり多くの方にご覧いただくためのお手伝いができるかもしれません。
営利を目的としていない個人のブログであれば、リンクはもちろん無料です。
お申し込みはインターネット・ジャーニー「個人ブログの部屋」をご覧ください。

※掲載にあたり、事前に一定の審査をさせていただきます。内容によってはリンクをお断りしなければならない場合もございます。予めご了承ください。

www.japanjournals.com

インターネット・ジャーニー



奇跡を呼び起こす!? ユネスコ世界遺産 ヴィース教会

フッセンから車を北に走らせること約30分強のシュタインガートンSteingadenには、ヨーロッパで最も美しいロココ様式の教会のひとつと謳われるヴィース教会がある。外観はむしろ質素で、なぜこの教会がユネスコ世界遺産？と疑問に思われる方も少なくないだろう。1738年、この近郊の修道院に放置されていた「鞭打たれる救い主(キリスト)」の像が涙を流すという奇跡が起きた。それを機に祈願成就と巡礼のため、このキリスト像をまつる教会が建てられ、ヴィース教会と名づけられた。以来、この教会はヨーロッパ内外から多くの巡礼者が訪れる地として名高い。教会は19世紀初頭に火災に遭ったが、地域住民の熱意と献金によって保護され、1985年から6年に及ぶ大規模な修復工事を経て現在に至る。

Pfarramt Wieskirche, Wies 12
D-86989 Steingaden
08862-932930 www.wieskirche.de
8時～19時(冬期は17時閉館)



聖霊シュピタル教会 Heilig-Geist-Spitalskirche

赤褐色の華やかなフレスコ画が正面ファサード一面に描かれた聖霊シュピタル教会。1733年に建築が始まったものの、火事で焼け落ち、1749年に再建されたもの。フレスコ画には大火事から人々を救う守護聖人たちが描かれている。



©The German National Tourist Board

街の一角にたたずむ「リュート職人の噴水」。フッセンはリュートとパイオリン製造の街と知られ、17世紀半ばには、この街では家具職人よりもリュート職人が多かったといわれている。この噴水のそばにはバン市場がある。

